

2018年6月13日

日本経営倫理学会会員  
過年度参加ゼミの指導教員 各位

第8回 CSR 構想インターゼミナール  
実行委員会 事務局

## 第8回 CSR 構想インターゼミナール開催案内

平素より、インターゼミナールにご理解とご賛同を頂き心から御礼を申し上げます。

2018年度、第8回 CSR 構想インターゼミナールは中外製薬株式会社様のご協力を頂き、「ヘルスケア産業におけるCSR活動の可能性と課題」を共通テーマとして開催いたします。大学において、学部のゼミナールをご指導されている先生におかれましては、応募をご検討頂けますと幸いです。

なお、詳細につきましては、参加決定通知送付後に改めてお知らせいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

—記—

名称: 2018年度 第8回 CSR 構想インターゼミナール  
主催: 第8回 CSR 構想インターゼミナール実行委員会  
共催: 中外製薬株式会社  
後援: 日本経営倫理学会

日時: 2018年10月13日(土)  
10:00~18:00 インターゼミナール研究発表大会  
中外製薬株式会社 浮間事業所 会議室 (東京都北区浮間5-5-1)  
√JR 埼京線「北赤羽」駅 徒歩12分 (快速は停車しません。各停をご利用ください。)  
√JR 東北本線・宇都宮線・高崎線・埼京線・川越線・湘南新宿ライン・京浜東北線・根岸線  
「赤羽」駅 北改札口を出て東口方面からタクシー15分(2,000円弱)  
18:00~20:00 懇親会(JR 赤羽駅近辺を予定)

共通テーマ: ヘルスケア産業におけるCSR活動の可能性と課題

開催趣旨: 医療技術の飛躍的進展により、多くの疾病治療が可能となり、日本では超高齢化社会、人生100歳時代の到来が実現しつつある。同時に未だ基礎的な医療も十分でない国々あり、また先進国では医療費の増大、医師不足など様々な問題も山積しています。国連のSDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)では、2030年までに達成すべき17の目標のうち、3番目に「すべての人に健康と福祉を」というゴールが掲げられています。

今回のCSR構想インゼミでは中外製薬株式会社様の共催を得て、ヘルスケア産業のCSRを考えることを通じて、医療、看護、公衆衛生、予防、介護などを含む人間の健康に関わる問題にどのような対応が可能かを探ることを全体の目標にしたいと思っております。

以上

## 第8回 CSR 構想インターゼミナール 募集要項及び運営詳細

### I. 募集要項

#### 1. 応募資格

- (1) 経営倫理と CSR、またその関連テーマを研究する大学の学部が開講する演習科目(ゼミナール)を募集対象とします。所属する学部・学科の名称を問いません。
- (2) 指導教員 1 名につき 1 テーマの応募を受け付けます。指導教員が異なる場合には、同じ大学や学科から複数ゼミの応募も受け付けます。
- (3) 事務局と定期的に連絡のとれる学生代表を 1 名、ご選出してください。
- (4) 発表当日まで演習担当の教員が研究指導を行い、会場での引率することを応募の前提とします。

#### 2. 注意事項

- (1) 指導教員または代理の職員が必ず引率・同伴してください。(学生・院生・研究生などを引率者にはできません。)
- (2) 引率・指導教員には実行委員会委員を委嘱し、運営上の役割を後日依頼します。
- (3) 食物アレルギーおよび障がいを抱える学生が参加する場合、事務局に求める対応についてあらかじめご相談ください。
- (4) 施設内の規定に従い、各自の言動に注意を払ってご参加願います。

#### 3. 募集ゼミ数 8 ゼミ程度

- (1) 下記「審査基準と表彰」の基準 1-4 に従い申請内容を審査し、参加ゼミを決定します。
- (2) 審査結果を 8 月中旬に通知します。通知は採否のみで、選考理由の開示には応じかねます。
- (3) 申請状況および運営上の都合を勘案し、参加数を最終決定します。

#### 4. 参加費

学生 1 人当たり、インゼミ発表大会、発表会当日の昼食、および懇親会費で 5000 円程度を目途に調整しております。詳細は別途連絡いたします。

#### 5. 応募方法

- (1) 学生が申請書(別紙)に必要な事項を記載のうえ、下記あてにメールでお送りください。
- (2) 申請に際して、指導教員にも同報メール(CC)を送付してください。
- (3) 応募締切は、2018 年 8 月 31 日(金)終日です。

#### 6. 申し込み・問い合わせ

第8回 CSR 構想インターゼミナール実行委員会事務局

事務局長： 関西大学 社会安全学部 高野一彦 : takano\_law@ybb.ne.jp  
事務局長補助： 関西大学 高野研究室秘書 高橋映子 : sec@t-zemi.com

※事務局長が不在の場合、高野研究室の秘書、または高野ゼミの学生が対応することがありますので、必ず上記2つのメールアドレスを「TO」に、指導教員を「CC」に入れて、メールを送信してください。

#### 7. その他

2018 年 7 月を目途に、本インターゼミナールの全体説明会の実施を計画しております。詳細が決定しましたら、別途連絡を致します。

## II. 運営詳細

### 1. 発表時間:

- (1) 15 分間の口頭発表と 5 分間の質疑応答を予定しています。この時間内を審査対象とします。
- (2) 発表前、5 分程度の自己ゼミ紹介をお願いします。この時間については審査対象外とします。
- (3) オブザーバー参加(審査・表彰対象外)の場合に発表時間やゼミ紹介を変更することがあります。

### 2. 発表方法:

- (1) MS-PowerPoint などで作成したスライドを用い、口頭でご発表ください(動画・音響の使用可)。
- (2) 登壇者の人数は問いません。
- (3) 別途、資料を会場で配布することも認めます。ただし配布物を各ゼミで用意し、当日持参してください。持参枚数は参加人数決定後、後日案内します。ちなみに昨年の参観者は 120 名程度でした。

### 3. ポスターセッション

- (1) A0サイズのポスターを会場内に掲示し、審査対象といたします。最優秀作品にポスターセッション賞を授与します。発表内容を 1 枚のポスターにまとめ、カラー印刷したものを当日ご会場に持参ください。
- (2) 掲示用の文房具を事務局で用意いたします。

### 4. 審査基準と表彰

ゼミの指導教員、および学生代表を主たる審査員としてプレゼンテーションとポスターを評価対象とします。以下の 7 項目を基準として評価し、その合計点を競う方式を採ります。表彰対象は、最優秀賞、優秀賞、佳作、ポスターセッション賞の 4 賞です。なお所属ゼミによる発表の際は、教員、学生代表ともに審査から外れていただきます。

- |            |                             |
|------------|-----------------------------|
| ①独創的な構想:   | 実現可能性・持続可能性を踏まえた独創性         |
| ②分析の緻密さ:   | 調査や分析、資料収集の緻密さ、正確さ          |
| ③議論の整合性:   | 論理の一貫性、ストーリー展開の連続性          |
| ④倫理的な洞察:   | 各ステイクホルダーへの配慮と洞察            |
| ⑤発表上の工夫:   | プレゼンテーションの明快さと訴求力           |
| ⑥質疑応答:     | 質疑応答の的確さと説得力                |
| ⑦実証・実現可能性: | 調査研究の検証可能性、または事業提案の採算や事業計画性 |

### 5. 学生論集の刊行:(予定)

発表内容を学生論集として刊行する予定です。日本語 8,000-10,000 文字の論文を執筆し、事務局にご提出いただきます。詳細について別途連絡します。編集と修正を行った成果物『インゼミ学生論集』を、PDF ファイルや印刷冊子などで広く配布する予定です。

### 6. 今後のスケジュール(予定)

8 月 31 日	応募締切
9 月中旬	受理通知(選考を行う場合は、発表の可否を別途連絡)
9 月下旬	インゼミ実施要領の送付、発表タイトルの変更受付、ゼミ紹介文・発表概容の作成、参加者名簿の提出
10 月上旬	発表用スライドの提出(当日の差し替えも可)
10 月 13 日	発表大会(インゼミ当日)
2018 年 1-2 月	論集原稿の提出(予定)
3 月末	インゼミ報告論集(PDF 版)の発行・配布

### Ⅲ. 参考 過去の発表テーマ

第7回(2017年10月7日) 於:マイステイズ新浦安



発表テーマ

- ・「USJ へのソーシャルビジネス提案」
- ・「総合的な地域活性化事業—遊休地を利用した豆乳・豆腐の製造」
- ・「テーマパークのフードロス削減に関する提案—ドギーバッグによるフードレスキュー」
- ・「従業員のモチベーションと危機管理の実効性に関する—考察—テーマパーク事業における災害対応の取組に関する事例研究」
- ・「教育をテーマとしたテーマパークにおけるジェンダー意識改革」
- ・「日本の過去と未来のための新たな体験型おもてなし—オリンピックの先へ、オリエンタルランドが目指す CSR」
- ・「フィリピンへの衣服発送での支援」
- ・「Kobo パーク宮城を活用した CSR—“東北”のプロ野球チームとしての地域貢献」
- ・「自然と共に生きるテーマパーク—東京ディズニーランドによる熱帯雨林の再生プロジェクト」

第6回(2016年10月7-8日) 於:国立オリンピック記念青少年総合センター



発表テーマ

- ・「観てけらいん——石巻の民宿を活かした地域活性化」
- ・「東北3県プロジェクト——観光客の招致と地域復興の提案」
- ・「ファストファッションを変えるため——オーガニックコットンを普及させる新たなビジネスモデル」
- ・「震災の際の外国人への対応——多国籍対応避難所の必要性について」
- ・「熊本復興プロジェクト」
- ・「巨大災害を乗り越える BCP——東日本大震災・熊本地震における企業の実態調査からの提言」
- ・「ミャンマーの栄養改善プロジェクト——スピルリナで母子の命を救え」

第 5 回(2015 年 10 月 9-10 日) 於:大学セミナーハウス(東京都八王子市)



#### 発表テーマ

- ・「人材シニアサービス——高齢者と保育の融合による女性の活躍推進」
- ・「酒蔵を守りたい！——小澤酒造への CSV 提案」
- ・「ミャンマーの雇用における問題——現地からミンガラバー」
- ・「社会貢献活動の急先鋒？——OP 事業の傾向と対策」
- ・「Skype 甲子園——中高生に意欲を与えるきっかけを」
- ・「ラジオによる防災対策——コミュニティ FM と臨時災害 FM の役割」
- ・「日本の大学生の情報倫理に関する意識調査」
- ・「東北で働く？——人材確保へのアプローチ」

第 4 回(2014 年 10 月 3-4 日) 於:関西大学高槻ミュージックキャンパス(大阪府高槻市)



#### 発表テーマ

- 「地域活性化を目指したレジャーパスポートの提案——観光からボランティアへ」
- 「高齢化社会における QOL 向上を目指したソーシャル・ビジネス創造——NPO 法人しゃらくの事例研究」
- 「ビジネス体験学習——東北を元気に」
- 「“復興”を越えた”新しい農業のカタチ”へ」
- 「キヤノンの「CSR」——カンボジアの医療機器を救え」
- 「日本の大学生の倫理意識調査」
- 「女性の社会進出——ダイバーシティ経営を目指して」
- 「漁業の発展的復興モデルとその支援策」
- 「いっぺん飲んでみ!!河内のワイン」(オブザーバー報告)



第 3 回(2013 年 9 月 8 日) 於:東北大学片平キャンパス(仙台市青葉区)



発表テーマ(※復興構想インターゼミナールとして実施)  
「東北支援の在り方に関する提言:現在の東北に必要な継続的支援」  
「みやぎのすてき!プロジェクト 2013年バージョン」  
「つつじがおか 自転車×震災復興:ルート探しサイクリング」  
「新しいボランティアの形を:大学・ボランティア・被災企業の三位一体計画」  
「TRIP MAP の提案:IT の力で被災地観光を活性化」  
「ウゴカセ、ミヤギ:雇用問題から復興を考える」

第 2 回(2012 年 9 月 29 日) 於:慶應義塾大学三田キャンパス(東京都港区)



発表テーマ(※復興構想インターゼミナールとして実施)  
「被災地域の農業再生とコミュニティ活性化—JA 仙台との復興イベントの構想—」  
「未来を見据えた着実な一歩 ~被災地の宿泊機能向上~」  
「みやぎのステキ!プロジェクト」  
「わが国の防災・減災における課題と新たな防災教育の提言」  
「被災地の子供を対象とした文化復興」  
「田代島「にゃんこ・ザ・プロジェクト」を対象とする過疎被災地の復興構想」

第 1 回(2011 年 9 月 24 日) 於:慶應義塾大学三田キャンパス(東京都港区)



発表テーマ(※復興構想インターゼミナールとして実施)

「防災教育の重要性～ 学校教育再編への提言 ～-東日本大震災をふまえて-」

「被災者への心的支援活動 KIT(きいて)プロジェクト～イマイキラジオが伝える物語～」

「福島支援プロジェクト「富士常葉大学の福島顔晴ろうプロジェクト」

「震災復興支援案～東北コットンプロジェクトをモデルに～」

「福島原子力発電所事故から学ぶ環境倫理学テキストの作成」

「がれきから生まれる雇用とグリーンビジネス」

「プランの提案 ～鮎川小学校の運動会開催～」

以上